

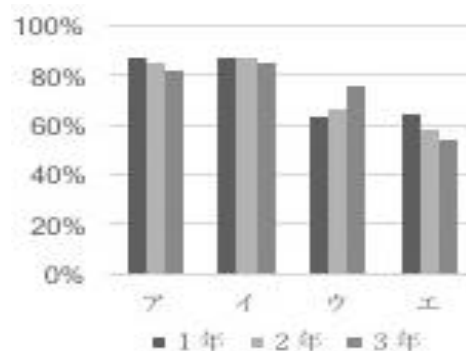
自ら学ぶ意欲をもち，共に支え，共に高め合う生徒の育成 ～学び合いのための新聞活用～

糸魚川市立糸魚川中学校

1 NIE 実践のねらい

当校は，NIE と同じ 2 年間，国立教育政策研究所「魅力ある学校づくり調査研究事業」の指定を受けている。そこで行った生徒アンケートの結果は右の通りである。（回答は 4 段階で，「はい」と答えた生徒の割合をグラフにした）この結果から，授業に主体的に取り組んでいる，授業がよく分かるという問いに「はい」と答えた生徒は，学年で違いはあるが 60 パーセント程度であった。また，みんなで何かをするのは楽しいという問いには，80 パーセント以上が「はい」と答えている。しかし，みんなで何かをするのは楽しいが，他人とのコミュニケーションを積極的にとることを苦手とする生徒が少なくない。今年度は落ち着いているが，過去には対人関係に起因した様々なトラブルも発生している。

生徒が関わり合う活動をさらに充実させながら，主体的に学ぶためにはどのような手立てが必要か考えるため，「自ら学ぶ意欲をもち，共に支え，共に高め合う生徒の育成」を今年度の校内の研修テーマに設定した。



ア	学校が楽しい
イ	みんなで何かをするのは楽しい
ウ	授業に主体的に取り組んでいる
エ	授業がよくわかる

2 実践の概要

(1) 研修テーマと NIE

指定研究を受けたから特別なことをするのではなく，NIE を校内研修のテーマにどう取り入れていくかを考えた。

・「自ら学ぶ意欲をもち」

今学んでいる学習は，社会の様々な事象と関係があるという意識をもたせる。

・「共に支え合い」

新聞記事などを使い，授業での学び合いの場を設定する。

・「共に高め合う」

意見を出し合うことで，様々な視点をもつことができる。

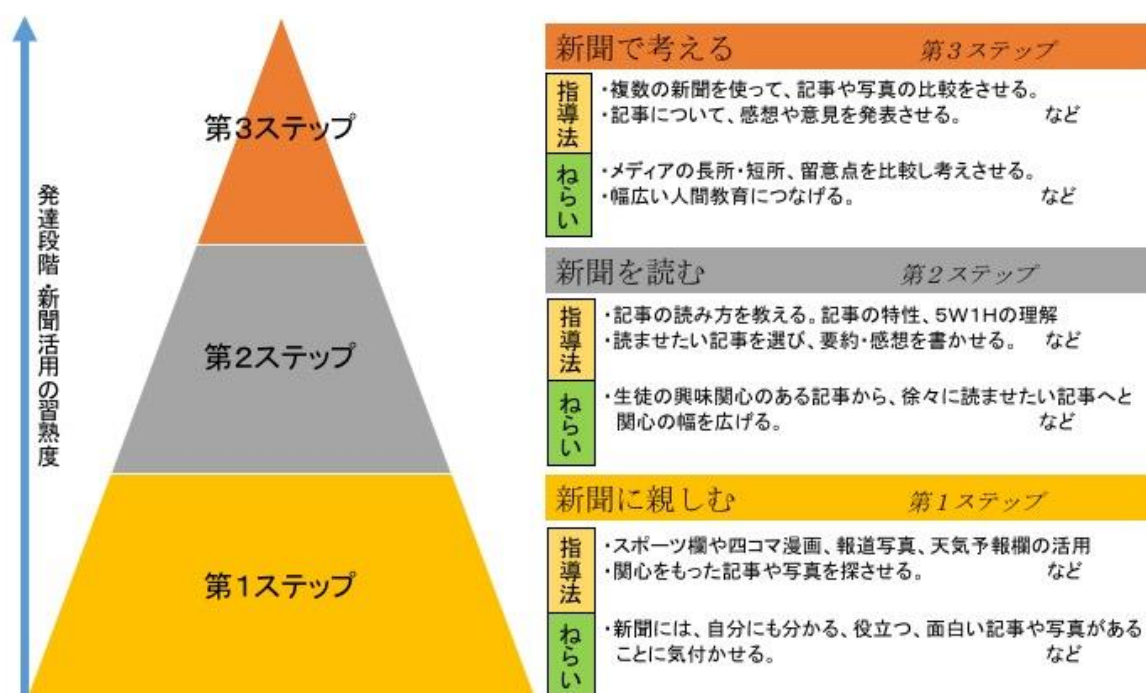
文部科学省は，「基礎・基本的な知識・技能の確実な定着やその活用を図る学習活動の充実を重視するために教科書だけでなく，各学校におい

て使用される各種教材等についても質・量両面での充実が必要」と学習指導要領に記述している。そして、「今日の教育は教科書をベースにしつつも、多様なテキストを活用した効果的な指導が必要である」とも述べ、そのテキストの中で新聞が重要な位置を占めると話している。

そこで当校は、教育活動全体を通して新聞を活用することで、その流れが、生徒が自分のよさを発揮し主体的に活動すると共に、自他の向上に貢献しようとする姿勢につながると考えた。

(2) 新聞活用の 3 段階

やみくもに新聞を使っても生徒は戸惑うだけで、楽しんで新聞に親しみ、読み、考えることにはつながらない。



新聞活用の 3 段階

上の図は、まず新聞に親しんだ上で、読み考える段階への発展する活用の手順をモデル化したものである。当校では、第1ステップから第3ステップの3ステップを各学年に置き換えて新聞活用の習熟度を高めていく。(出典：実践ヒント・ワークシート集 NIE コンサルタント 妹尾 彰 著)

(3) 授業の中でのトピック的な活用とは

基本的に、教科書を使用した授業がメインであり、新聞は、その授業の中のエッセンスとして活用する。そして、今学習していることと社会との関連を意識させる。ただ、授業にあった記事がタイミングよく掲載されているかということそうではないため、教師自らが、新聞に目を通し、授業に必要な記事をスクラップすることも大切になってくる。

3 糸魚川中学校の実践の概要

生徒玄関ホールに閲覧コーナーの設置

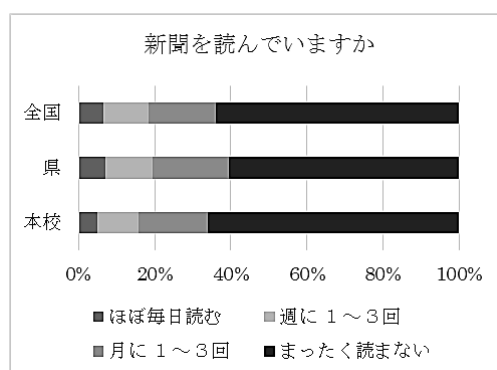
平成28年度からNIE実践校に指定されたため、9月から2月まで毎月新聞が4部ずつ購読できる。ちょうど、8月末に全国学力学習状況調査の結果が届いた。(右図)

「新聞をほぼ毎日読む」「週に1～3回」の割合は全国並みであるが、低い状況である。

まず全校が新聞に親しむことから始めることにした。

生徒玄関ホールに、3日間の新聞を閲覧できるコーナーを設置した。

このコーナーの運営は、生徒会の報道委員会が担当した。また、写真新聞を掲示し、その横に一言コメントを付けるなどの活動も行っている。生徒だけでなく、職員も新聞に触れる機会が増え、新聞閲覧コーナーで、職員と生徒が話をしている姿が多く見られるようになった。



ふむふむ DAY

全校で毎月1回、朝読書の時間を「ふむふむ DAY」と名付け、毎週水曜日にメール配信される読売ワークシート通信を使って、社会の動きを知ることと自分の感想を記入する時間を設けた。

学年の廊下には、ふむふむ DAY で書かれたワークシートを掲示した。全員が1回掲示されるような工夫も行った。



総合的な学習の時間での活用

新潟日報社の「はたらく 羽ばたく」という記事を印刷し、学年の廊下に掲示した。ちょうど職場体験前ということもあり、2年生は、部活動や昼休みの時間に友人と一緒に見ている姿が見られた。

また、職場体験のまとめを新聞形式で作成し、学年の廊下に掲示した。



4 各学年の実践

学年・教科 授業者	内 容	流 れ	教科書 ページ
1 年 国 語	「今に生きる言葉」 新聞記事の内容に合う故事成語を考えることを通して，故事成語の成り立ちや意味を理解する。	○故事成語が空欄になった新聞記事を読み，資料を使いながら，空欄にあてはまる故事成語を考える。 【個人】 ○故事成語の成り立ちや意味を調べる。 【個人】 ○グループで交流し，調べたことを発表する。 【グループ】	光村図書 P158 P159
2 年 数 学	「1 次関数の活用」 具体的事象を 1 次関数とみなすことで，問題を解決する。	○樋口一葉の身長に関する記事を読む。 【個人】 ○生徒 33 名の上腕骨の長さや身長との関係性をプロットする。 【グループ】 ○1 次関数の関係を見出し，樋口一葉の身長を予想する。 【グループ→個人】	学校図書 P92 P93
3 年 社 会	「マスメディアと政治」 新聞記事の比較を通して，新聞のよさを考える。	○新聞記事を比較し違いをまとめる。 【個人→グループ】 ○グループで考えたことを発表する。 【グループ→全体】 ○新聞のよさはどんなことかを考える。 【全体→個人】	教育出版 P80 P81

実践 1 1 年生 国語

本時の目標

- ・新聞記事にも故事成語が使われていることを知り、古典をより身近に感じることができる。
- ・便覧を使い、新聞記事に使われている故事成語を調べ、その意味や使われ方を理解する。
- ・調べたことをグループで交流することで、故事成語についての理解を深める。

本時の流れ

時間	○学習活動 ・ 生徒の反応	○指導上の注意	※評価 (観点, 方法等)
5	○前時の内容を確認する。 ・ 故事成語は、昔の事柄から成り立っている言葉。 ・ 「矛盾」の意味は「つじつまが合わない」こと。 ・ 新聞 ・ マンガ ・ テレビ ○本時の課題を確認する。	○前時に学習した「矛盾」の成り立ちや意味を確認する。 ○故事成語は身の回りでどのようなところで使われているのかを問いかけ、「矛盾」が使われている新聞記事を示す。	
新聞記事に使われている故事成語の成り立ちや意味を調べよう			
35	○国語便覧を使って、新聞記事に使われている故事成語を見付ける。 ○グループになり、同じ記事を読んだ仲間と話し合って確認する。その後、意味を調べ、新聞での使われ方を読み取る。 ○他のグループの違う記事を読んだ仲間と交流する。	○新聞記事をよく読むように促す。 ○当てはまる故事成語が分かった時点で挙手をさせ、正しいか確認し、その後の活動に進ませる。 ○他のグループの仲間に調べたことを伝えたり、仲間が調べたことを聞いたりすることで故事成語の理解を深めさせる。	※新聞記事に使われている故事成語を見つけ、その意味や使われ方を理解している。 (言語についての知識・理解・技能, 活動の様子とワークシート) ※調べたことをグループで交流することで、故事成語についての理解を深めている。 (言語についての知識・理解・技能, 活動の様子とワークシート)
10	○他のグループとの交流で得た故事成語を確認する。 ○正しい故事成語が入った新聞記事を読む。 ○本時の振り返りをする。	○数人に指名し、他のグループの仲間から聞いた故事成語の成り立ちや意味、新聞での使われ方を発表させる。 ○故事成語（古典）が今も身近な生活の中で使われていることを感じさせる。	

実践 2 2 年生 数学

本時の目標

- ・上腕骨の長さとし長の関係をグラフにすることで、1 次関数とみなせることに気付く。
- ・式 $y=ax+b$ にすることで上腕骨の長さから身長を求めることができる。

本時の流れ

時間	○学習活動 ・ 生徒の反応	○指導上の注意	※評価 (観点,方法等)
8	○樋口一葉の新聞記事を読む。 ○本時の課題を把握する。	○写真を見せ,自由に発言できる雰囲気をつくる。	
	身長(y)と上腕骨の長さ(x)の関係をみつけ,樋口一葉の身長を予測しよう		
12	○ペアで表を基に生徒の座標(上腕骨,身長)をかき入れる。 ○点が一直線上に並んでいることから,身長(y)が上腕骨(x)の 1 次関数になることに気付く。 ○点に直線を引きグラフをかく。 ・たくさんの点を通るように引く。 ・密集している点の真ん中を通るように引く。 ・式化しやすい整数値の点を通るように引く。	○「点はどのように並んでいるか」と発問する。 ○直線を引くように指示する。 ○必ず正しいという直線はないことを補足する。	※ 散布図から身長(y)は上腕骨の長さ(x)の 1 次関数になるとみなし,直線を引くことができる。 (観点:見方・考え方,活動の様子)
20	○グループになり,グラフを見せ合い,そのグラフにした理由を発表する。 ・こんな理由で直線を引いた。 ○グループでグラフを 1 つにしぼり,式 $y=ax+b$ を求める。 ・誰の引いた直線が良さそうか。 ・どうやって求めたのか。 ○一葉さんの上腕骨の長さ(x)から身長(y)を求める。 ・$x=26$ を代入すれば, y(身長)が求められる。	○どんな理由で引いたのかを説明させる。 ○「どのように式を求めたか」が分かるように説明を考えさせる。 ○新聞記事中の一葉の上腕骨の長さを示す。	※ 直線のグラフから,式 $y=ax+b$ を求めることができる。 (観点:見方・考え方,ワークシート)
7	○求めた式を発表する。 ○どのように式を求めたのか,他のグループのところへ行き説明を聞く。 ○自分のグループに戻り,聞いてきてきた情報を共有する。	○予めポイント提示し,グループの求め方を聞くよう促す。	※ 式を求める過程,一葉の身長を求める過程が説明されている。 (見方・考え方,発表)
3	○求めた式を使って,いろいろな人の身長を予測する。 ・上腕骨の長さを式に代入することで身長が分かる。	○他の人の上腕骨の長さを与える。	※ 式 $y=ax+b$ を使って,様々な予測することができる。 (観点:技能,活動の様子)

実践 3 3 年生 社会科

本時の目標

- ・新聞記事を比較し、同じ記事でも新聞によって書き方に違いがあることに気付く。
- ・表現が違う理由や新聞のよさを考えることができる。

本時の流れ

時間	○学習活動 ・ 生徒の反応	○指導上の留意点	※評価 (観点、方法等)
5	○これまでの学習の復習をする。 (マスメディアの種類や働きについて)	○前時の学習の振り返りをいくつかの質問にし、生徒に聞く。 ○新聞について興味をもたせられるように工夫する。	
35	新聞記事を比較し、新聞によって表現にどのような違いがあるだろう ○同じ出来事の新聞記事を比較し、新聞によって表現に違いがあることに付き、グループで意見交流する。 ・見出しの表現が違う。 ・出来事に賛成しているものもあれば、反対のものもある。 ○グループで交流したものをクラス全体に発表し、考えを深める。	○前時に個人で読み比べたものを生かして、グループで記事の違いを考えさせる。 ○グループで考えた記事の書き方の違いをクラス全体で交流し、考えを深められるようにする。	※新聞記事を読み比べ、表現の違いに気付くことができたか。 (観点：技能・表現、ワークシートや生徒の発言)
	なぜ新聞によって表現が違っているのだろう ○新聞による表現の違いがなぜあるのかを考える。 ・新聞によって、考えが違うから。 ・表現の自由が保障されているから。	○新聞記事の比較を意識させ、違いができる理由を考えさせる。 ○考えた意見を発表させ、考えを深められるようにする。	※なぜ表現の違いがあるのかを考えることができたか。 (観点：思考・判断、ワークシートや生徒の発言)
10	新聞のよさはどんなところなのだろう ○これまでの学習内容を踏まえ、新聞のよさを考える。 ・1面を見るだけで、様々な情報を得ることができる。 ・多くの考えに触れることができる。	○よさを考える際には、これまでの学習内容を活用できるよう言葉掛けをする。 ○考えた意見を発表させ、考えを深められるようにする。	※新聞のよさを考えることができたか。 (観点：思考・判断、ワークシートや生徒の発言)

5 成果と課題

成果

指定 1 年目は，どのように NIE を行うか悩み続けた 1 年であった。まず全校が新聞に親しむだけではなく，我々教職員も新聞に親しむことから始めることにした。当校は，年齢が若い（教職 6 年目以内）教員が多いため，自分で新聞を取っている教職員はゼロに等しい。生徒と同様に，玄関ホールの新聞に目を通す職員が多くなり，少しずつ新聞への親しみを感じることができた。

新聞記事を使って，日々行っている授業にどう結び付けるか，社会の事象が今学習していることにどう結び付いているかを考えることを 1 年目の途中から意識させた。これにより，授業改善が行われた。特に成果を感じたことは，講義的な授業スタイルから，対話を入れた授業スタイルに変わっていったことである。また，生徒の姿では，自分の考えを他人にしっかりと伝えることができる生徒が多くなった。表現力も豊になり，文字だけでなく，図や表などを使いながら説明する姿が増えてきた。これも，新聞の紙面を見ている結果だと思われる。



課題

今行っている学習に合った新聞記事がタイミング良く最近の記事に掲載されているという訳ではない。そのために，どのような記事を使うかを探すのに時間が掛かった。これからは，新聞記事データベースを活用していき，たくさんの記事を読み比べたいと思う。そのためには，利用するための予算付けが必要になってくる。



故事成語の学習で使った記事

（新潟日報 2017 年 6 月 6 日）

次に，使用する記事の取扱

である。私たちは，たくさんの情報を生徒に与えすぎているように思うことがある。記事全部を読む必要があるのか，複数の記事がある場合は，どこを重点的に読ませるのかなど，記事の中身を吟味する必要があるように思う。